

編集室から

表紙の写真は、昨年からアウトドア仲間と始めたりんごの樹オーナーで収穫されたものです。このアウトドアの集まりは、デザイナーなど多彩なメンバーが集い、遊びといえども創造性を発揮する非日常の現場を持つことがテーマとなっています。

りんごの収穫にも創造性をとということで、収穫前に透明なシールを配り、そこに黒マジックでお絵かき。りんごに貼るとアラ不思議。黒く塗られて日光を通さない部分が色づかず、林檎絵ができあがり。

去年は、子どもの名前を書いたりしたのですが、中々食べられず、これはNG。写真のような単純な絵柄の方が楽しい仕上がりになりました。一枚一枚に作者の個性がでますので、出来上がった林檎も表情が豊かです。

大勢の仲間とワイワイいいながら収穫するのですが、意外に自分たちの書いたものは、覚えていて間違ふことはありません。

お世話になっている金曾農園さんは、能登の里山で各種の果樹を栽培しておられます。青森の木村さんの奇跡的林檎のような無農薬・無化学肥料ではありませんが、それでも表面にワックスなどは掛けられていないため、安心ですし、とっても美味しい林檎たちです。

このため、毎年恒例となっていた親族の善光寺参りと林檎買い付け行事に、我が家は不参加となりました。

今年の収穫は今月中旬。出来栄えが待ち遠しく、楽しみです。

先月、義父の船を漸く、漁港に下ろしました。嵐で失われた係船ロープを、親族の漁師さんに取り付けてもらい、船外機を整備しての作業でした。既に冬が間近なので、そろそろ陸揚げしなければならず残念ですが、来春からは富山湾の海上散歩もできます。(は)



本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが経営する「能登の夜市(のどのよるいち)」。最近、問い合わせを多く頂きますので、こちらに連絡先を記載いたします。

上京された際、ご利用になってみてください。毎夜能登から直送の酒肴に包まれ至福です。もちろん、川畠さんご自身もお店に立っておられます。

能登の夜市：03-6417-9787
17:00～23:30 日・祝日 定休
目黒駅西口前。サンフェリスタ目黒B1F
<http://notoyoru.jp/>

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2012/11

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2012/11

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

霜 月



自画シールで林檎絵
能登・金曾農園にて
by hama

寄稿『じぶんに投資してますか?』

自営業 笑む

専業主婦として家族のために家事をしていた頃と違って、お仕事を始めますと、ほんとうに色々な方とご縁で結ばれます。

あの方のようになりたいなあ〜と感じるとても素敵な方もおられれば、逆に私などよりもずっと美しいお顔立ちをされているのに、どこかくすんで見えてしまい、この方はご苦労をされているのだろうかと思ってしまう方もいらっしゃる。

自分の見方が変わっているのかもしれないませんが、世間での活躍の様子と、素敵さの加減は、なんだか比例はしていないような気が致します。

私も子育ての最中は、それこそ格好も何も構わず走り回っております。ところがある時、ふと覗いた鏡の中の疲れた自分にそれはもうビックリ!「このままではいけない!」とそれまでの暮らし方を全部変えました。かつて主人が、化粧は自分のためするのではない。周りの人のためにするものだ」と言っていたことを、このときになって思い出し、申し訳なく感じました。

その頃、お友達に誘われたセミナーで、講師の方が、こんなことを仰っていました。人の幸せに必要なものは、健康・愛・お金・自己実現。お金を最優先にすると、健康を害したり、愛を犠牲することが

ある。自己実現を最優先にすると、お金を稼げなかったり、それによって健康を損なうことがある。だから、順番が大切で、まず健康で、周りの人々との愛のある生き方をした上で、収入と自己実現が得られれば最高の幸せを手に入れられる…。

当時は、そんな夢のようなお仕事など信じられませんでした。素晴らしいご縁のお蔭で少しずつ色々なことに気付かせていただきました。

よく「自分なんて」と仰る方がおられますが、そんな方に限って、かつての私のようにご自分を低く見て、できないことはかりを並べ、身を固めておられるのが、今の私からは残念でなりません。もう少し、時間とお金をご自分のためにも投資されれば、見違えるように素敵なになれるのに…。とつい思ってしまうます。決して派手になる必要はありませんが、空気・水・食品など、自分の身体に入れて肉体となるものにも少し気を配ってストレスを取り除くだけでも、随分と身体が喜んで輝き出すような気がしています。

身体からは、引越しができません。周りの方のため、そして何よりもご自分のために、健康や美容に、多少のお金と時間を投資することは幸せになる入り口だと思います。みんな、綺麗になあれ。



【プロフィール】
(えむ)子どもたちは独立し、母、夫の三人家族。
暮らしの中から始める事業を展開中。

濱のつばき 『再現』

先月は、なりたい人・先進事例という他人をコピーする方法について触れた。

一方で、なりたい自分がいっつも他人とは限らない。過去、最高の成績を上げた瞬間の自分の状態を、再現できれば、今此処でも最高の成績を収められるのではないかと、誰しも考えることであろう。

NLPにも、最高の自分を瞬間的に復元する手法が用意されている。これまた、そんなバカな…と思ってしまうような話ではないか。ところが、NLPで学んだか、無意識で始めたかは全く存じ上げないが、この原理を使って驚異的な成績を上げ続けている人物が居る。

その人は、メジャーリーグで活躍しているイチロー選手である。バッターボックスに立った彼は、毎回同じしぐさをする。お気づきであろうか?この他にも、映像にこそ映されませんが、打席につく前から彼は毎回同じ動作を寸分の違いも無く繰り返している。

これを単なる癖と見逃してはならない。NLP的には重要な原理が隠されているという。つまり、毎回行う同じしぐさは、最高の成績を上げた時の状態を自分の身体・潜在意識に対して思い出させる引き

金として意図的に行っているなら、NLPの自己最高潮復元術として完璧なのである。NLPでは、これらをスウィッシュ技法や、アンカリングとして扱っ。

研修で時折、問いかけさせて頂くことがある。「プロとアマの、本質的な違いは何か?」その違いは、お金を稼げるか否か、だけではない。それは未だ表面の現象・結果に過ぎない。

この問いに対して自分なりの答えは、「狙って成績を出せるのがプロ。まぐれ当たりがあるのが、アマ」と表現している。

もちろん、プロにも波がある。その波を可能な限り消し、常にほぼ一定の成績を上げられるのが、プロ中のプロではなからうか。イチロー選手は、見事にそれを実現している。

そして、その方法は決して派手なパフォーマンスでもなんでもなく、ぼんやり眺めている他人からは単なる癖としか感じられないような、実に地味でありかつ繊細な繰り返し積み上げの中にも隠されているのかも知れない。

プロ中のプロになるために自己最高潮復元術が役立つのではないかとしたら、これを自らに応用しない手はないのではないか。

浮き草のごとく33 福井県立大学 地域経済研究所 江川 誠一
『会社再建の当事者として(みちのくの譲らないひと)』

東北支社長。表彰歴も多い当社きっての優秀な技術者。背は小さいが声は大きい。純朴。そして譲らない。そんな彼女は会社再建の道のりで、新取締役の一人として経営に関わるとともに、本業を牽引するリーダーとして現場にも立ち続けた。替えの効かない戦士の一人だった。

その当時、私が自分に課したミッションは明確だった。第一に会社が突然死しないように少しでも時間をかせぐ。第二に、その上で会社を継続させる。第三に、できれば自分で立って歩けるような会社に戻す。それが全てであり、このミッションに反するものに対する妥協の余地はなかった。

彼女の信念もまた揺るぎないものだった。今ある仕事を優先し、顧客や取引先には迷惑を掛けない。社員、特にこれまで会社を支えてきたベテラン陣の気持ちをよく酌む。平時であれば至極正論であり、間違っているところは何一つない。有事であっても重要なことである。

毎日、入出金をチェックして資金繰りに万が一のことが起きないように気を配り、グレーな相手を含む債権者や出資者と対峙する。そして、本業には一切かわらない。そういう毎日の私とは違い、彼女は疑心暗鬼の顧客、取引先、そして不安を抱えた社員と日常業務をこなし、多忙な時間を縫って本社に駆けつける。相対している危機が違うのだ。私が自らに課したミッションと彼女の固い信念は相容れなかった。お互い譲らなかった。

そういう訳で私とは徹底的にそりが合わず、飲むと必ず口論になった。具体的にどんなことで意見が合わなかったのか、今となってはほとんど思い出せない。とにかく、お互い歩み寄ることはまったくなかった。最後は決まって、「そーゆーところが、ダメなのよ！」と張った声で言われ、大先輩¹に対して私は「甘すぎるよ！」と平然と言う。そんな時、回りの戦友はあまり介入せず、「また始まった」という感じでニヤニヤと眺めていた。当事者の2人も、口論は後を引くことがなく、もしかするといいストレス解消になっていたのかもしれない。

たぶん、当時の私は、答えはどう考えても一つしかない判断済のことについて、グダグダ言ってもしょうがないでしょという雰囲気と周囲と接していたように思う。ちょっと自負心が強すぎたのかもしれないが、自負心なくしてあんな役目はやり切れなかったのも事実である。一方で、気にしなくてはいけない顧客、取引先、そして社員についての配慮はおろそかになっていた。そういう軽んじた意識が垣間見える時、彼女は私の冷たさに声を荒げ、返す刀で私は彼女の理想論をなじった。他の取締役にも私のような傾向は少なからずあり、そんな中での彼女の役割は貴重だった。今もきっと、譲らない信念で仕事をしていると思う。声を張って。

1：私より一回り年上かつ彼女は生え抜きの社員。私は入社5年足らず。

『斎藤一人さんの本』

株式会社GARBAGE代表 川畠 嘉浩

事前に言うておきます。決してこれは特定の宗教を批判するものではありませんし、また新興宗教への勧誘でもありません(笑)。

先日アスリック通信を発行されている濱さんがふらっと目黒の当店の店に立ち寄られ、そこでお聞きした話がきっかけで斎藤一人さんという方の本を紹介されました。恥ずかしながら私は斎藤一人さんを存じ上げなかったのですが、どうやら日本で唯一事業による納税で十数年連続納税額がトップ10入りする方ようです。10年以上も事業で成功者としていられることは現代においては奇跡と言っても過言ではないかもしれません。

早速翌日アマゾンで気になるタイトルを5冊購入。最初に読んだのが「知らないと思える不思議な話」です。内容はたとえば「一日100回以上『私は愛と光と忍耐です』と自分に言い聞かせることで、人生が好転していく」というものです。それを実践された方達のお話が盛りだくさん詰まった本です。決して宗教的な話ではなく、まあいわば自己暗示でもあり、それによって考え方や行動に変化を与えることで人生が変化していくということのようです。それでよりいい人生になるならと思います、私も今週から一日100回以上唱え始めています。まだ変化ないなあ。

それはいいとして、この本の後半は斎藤一人さんが、『神』『業』『輪廻』『魂』について述べてらっしゃるのですが、この話が『あっ、それ俺も何となく感じていた!』というものでした。要約すれば、『神』という絶対的存在がいてそれは宗教によって呼び名は異なるが本質は同じことを指す。その『神』のもとに人間は過去の行い、つまり『業』を引き継いで『輪廻』していく。なので今起きているいい事、わるい事とというのは、過去(前世)の行いの積み重ねがもたらしたものであり、現世にて起こる出来事をを受け入れていくことで過去の『業』が精算され、『魂』が昇華されていくのだそうです。そして『魂』の昇華の最終段階とは、現世にて障害児として生まれたりすることらしいのです。なので、障害者の方々は健常者より魂がより高尚な方であり、私たちはその方々に教えを乞うているということらしいのです。

こう書くと非常に宗教じみた話になりますが、この本では斎藤さんの口語体そのままで書かれているため、何故かずっと心に入ってきます。

私自身も「神は誰しも心の中に存在する」「人は何かの使命を受けてこの世に生を受けた」「使命を全うするには心の声を聞く。心の声とは神の声である」「死とは新たな使命への旅立ち」という自分なりの神のとらえ方、死生観があるのですが、割とそれに近い考え方をもっている方、かつその方が日本でも有数の成功者と聞くと、自分に少し期待したくなります。

でも過去の業が。。。。。

『富士の国から ~大魔神のたび~』 寸又峡温泉開湯50周年記念フォーラム
「若者が地域を変える」(その4) 静岡県職員 溝口 久

さて、続くは同じ伊豆から(株)タクトの増田健太郎さんだ。

大学卒業後、プリンスホテルに就職し営業でめきめきと頭角を出した後、家業の旅館を引き継ぐべく下田に戻ってきた。この時すでに伊豆の観光は下降線をたどり、銀行から頼まれ経営に乗り出した別の旅館も大きな足かせとなり、結局母体の旅館も含め倒産を余儀なくされた。田舎町下田での倒産後、その場にい続けることは決して居心地のいいものではない。でも彼は宿経営から下田の魅力を引き出し加工し、それを世間に知らせることを仕事にしていった。

下田市を中心に「海洋浴」という言葉が使われるようになっていく。海からの恵みを体を受けて歩いたり、ヨガをしたり、ぼーっとしたりするのである。海風が含むイオンやミネラルを皮膚や呼吸から吸収することで代謝を活発にし、美肌や心肺機能の改善効果が確認されている。

ビッグシャワー下田実行委員会は2008年、観光客を対象に「下田といえばなにか」というアンケートを収集した。下田には唐人お吉や龍馬ゆかりの史跡、なまこ壁の古い建造物が残る。幕末の歴史が薫る町並みと、美しい海。回答はこの2つが大半を占めた。

下田の海は盆を過ぎててもクラゲは出ない、泳ぐには十分の水温もある9月にはいても海水浴オッケーのこの地で仕掛けた事があった。海辺の祭典・ビッグシャワーだ。露店を出した海岸で音楽コンサート、ゲームにビーチヨガやノルディックウォーキングといった、海洋浴を楽しんでもらうためのプログラムを取り入れている。この結果、9月まで下田の海を楽しめることが知れ渡り、それまで盆を過ぎると途端に客入りが鈍ったのが9月まで盛況という効果を引き出した。

さらに、龍馬ゆかりの地をめぐるツアーも提供している。下田龍馬伝はNHK大河ドラマ「龍馬伝」が追い風になったが、下田における坂本龍馬ゆかりの歴史的事実が数年前に発見されたことに端を発し、勝海舟が土佐藩主山内容堂に謁見して龍馬脱藩の勅許を得る舞台となった市内の「宝福寺」や下田滞在時の龍馬にまつわる歴史資源を地元の有志により再発掘・整理し、下田幕末の歴史に関する新たなツーリズムとして数年掛かりで作りに上げていった。



下田といえば「黒船」や「お吉」が代表的な観光資源であったところ、新たに「伊豆龍馬伝」という歴史的資源が加わったことによる効果はもちろんのこと、地域の埋もれた資源を地元の人々が掘り起こし、磨き上げ、一つの観光の形として提供するというニューツーリズム事業になった。本事業では、宝福寺の住職による講話を織り込んだツアー、その他のボランティアガイドツアーなどの各種着地型プログラムに加え、22年度に発行した地域通貨(龍馬くんコイン、龍馬小判)では、250店舗以上が参加、3万枚が流通するなど、地域全体を巻き込んだ取組も進めている。

これには小生も一枚かんでいる。山内容堂よろしくちょっと酔って夜の会議にファシリテーター役として臨み、皆が決めかけていることを板書に整理しながら一時間余りでやるべきことを決めることができた。師匠のMr.Yufuin中谷健太郎さんに言われたことをいつも思い出す。「Qさん、行政の役割というのは、かすかな羽毛なんだよ。純水の水は0度で固まらない。でも、そのかすかな羽毛を落とすことで瞬時に固まるんだよな」そう0度の純水は考え尽くした民意なのだ。

お次は女性の出番だ。

杵柄歩(きねづかあゆみ)さんは、心理カウンセラーの道から農業の道へ進んだ人だ。カリフォルニア大学パークレー校で会学・心理学をダブル専攻した。在学中にインターンシップで州立病院の患者のカウンセリングをし、貧困や格差など多くの社会的な問題に直面した。

カウンセラーの仕事は、週1回患者の話聞き処方箋を出すというもので、患者が抱える問題の根本的な解決には繋がらず、このままカウンセリングの道に進むべきか迷っていた。

ちょうどその頃、父の会社で紅茶生産を始めるために、スリランカから機械を導入することとなり、現地の技師2名を招くこととなり、通訳のため3ヶ月間の夏休みを利用して帰省した。この間に、農家や首都圏から消費者訪問で当社を訪れている方達のイキイキとした姿を目の当たりにし、施設で働かなくてもこれまで勉強してきたことを活かすことができるということに気づき、農業の道へ足を踏み入れた。

そして今やお茶とミカン、米農家になった。でもやることはもちろん普通の農家とはちょっと違う。

お茶摘み交流会には、今年140名が訪れた。同じ思いを持った仲間が集わないと継続できない。私が一番若くて、次の方は50代だった。若い衆といったらどのくらいか聞いてみると、皆50を過ぎていく。

学生を誘ったり、お茶を取り組んでいる人がいるとバーベキューに誘ったりしていた。味噌造りをする機会があり、そこに参加したメンバーを誘って、米作りを始めた。そこには、若い女性が多かったのである。田植えを若い人がやっていると、地域の人たちがなんだなんだといって集まってくる。

地域の人にとって何でもないものを、みんなで美味しいと言って食べる。このことが農家に自信と気づきを生んだ。

さらに、志太榛原ネット、農コンを企画したりした。関わる仲間ができること色々できるようになっていった。

楽しさが連鎖反応を起し、ついには外国からも留学生がくるようになり、一反の田んぼの田植えが一時間もしないうちに終わってしまいますことになった。

私たちが大切にしているのは、語り合い場だ。語り合うことで、自分たちの足元を見つめなおす。こんなことの繰り返しから、つくづく日本ほど多様なゆたかさを持った国はないと思うのである。

まだまだ課題は多いが、この地域ですべて生きていきたいと思っている。

